

地域協議会の活動活性化に向けて

地域協議会の活動活性化に向け、令和4年度から、推進市民会議において、9地域協議会から、各地域の活動の現況や自慢、今後の課題（悩み）などを聞き、委員と現場で活躍する地域協議会との情報共有と、委員の専門的な知見から具体的なアドバイスなど意見交換を行った。

1. 好事例の共有

地域協議会活動事例を共有する中で、素晴らしい活動（＝キラリと光る活動）が多数あった。

2. 課題

地域協議会から出された課題を集約すると、

①担い手不足（8協議会）、②周知方法・参加者増加（6協議会）、③他団体との協働などが共通した課題となっている。

2. 抱える課題

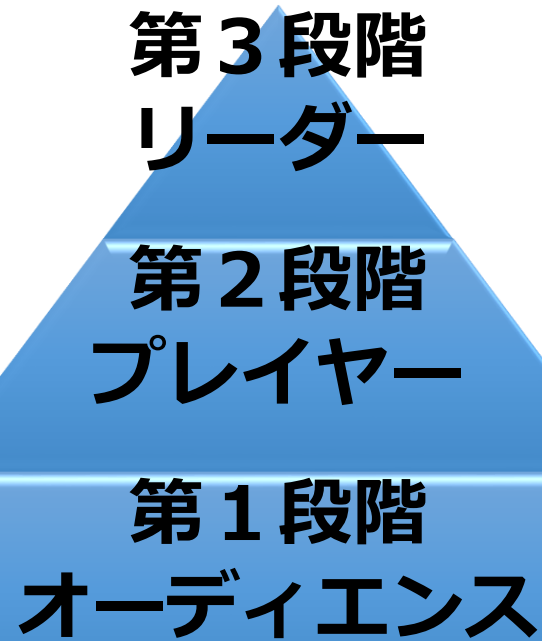
番号	課題	委員アイデア	他の方向性	論点（案）
1	「リーダー」 ・中心となる人材が高齢化・固定化している	・スポットボランティア ・こどもや若い世代を育成 ・企業・団体との連携	・「みんなで育てる地域の手引き」の追記	仲間を増やすためには
2	「プレイヤー」 ・事業を行うマンパワー、ボランティアの確保が難しい	・事業間のボーダークロス ・やりがい発信	・事務員雇用	もっと気軽に活動を
3	「オーディエンス」 ・参加者を増やしたいが、良い周知方法がない	・SNS活用	・地域の新聞店	地域のことをもっと知ってほしい
4	・地域で一番生活している、こどもと高齢者の見守り	・子育て世代にアピールするために、学校とタッグを組む	・PTA	地域協議会で伸ばしていきたいこと

3. 人材確保・育成

地域協議会の活動には、地域課題に取り組む仲間・協力者が必要であり、人材の確保・育成は重要な課題である。

地域協議会との関わり方・求める人材を整理すると、①参加者（オーディエンス）、②運営者（プレイヤー）、③代表者（リーダー）に大別される。

それぞれの立場の人材を増やしていくためには、それぞれの働きかけと、容易に立場（関わり方）を変えることができる柔軟性が必要とされる。



《対象と課題》

(代表者)

- ・高齡化、固定化

(ボランティア、手伝ってくれる人)

- ・誰に、どのように声をかけるか
- ・負担とやりがいの周知

(参加者)

- ・認知度アップ、周知方法

4. 素晴らしい活動（＝キラリと光る活動）

キラリと光る活動に共通する特徴

※発表した地域協議会の事業のみを掲載

特徴（1）着眼点

①地域課題に沿った活動

《事例》児童交流・見守り：青色回転灯防犯パトロール（篠岡）、食を通じた多世代・多文化交流：ふれあい農園（一色）、高齢者支援：おたすけ隊（篠岡、小牧原、大城、本庄）・健康づくり（篠岡、小木）、IT・デジタル対応：ホームページ・LINE運用（陶、本庄）、スマホ教室・相談会（陶、大城）

②地域の財産の活用

《事例》不要な民具を集めて展示（陶）、休耕地をフラワーパークに活用（篠岡）

特徴（2）積極的な連携・効率化

①他団体・企業との積極的な連携

《事例》中学生ボランティアがイベント・防災訓練に参加（小牧、篠岡）、事業のアイデア自体を募集する（小牧）、高齢者等を対象に社会福祉協議会・企業と連携し、移動販売を実施（光ヶ丘）、PTA・学校行事へ出展（小牧原、本庄、一色）

②事業の効率的な実施（ボーダークロス）

《事例》通学児童見守り×認知症高齢者見守り（小牧原）